3 利活用にあたっての考え方

3.1 利活用コンセプト

北潟の森は、潮害防備保安林として人々の暮らしを守ってきた森です。このような北潟の森で、様々な分野の人々と連携しながら森林・林業体験を展開することは、森をはぐくみ、人々の健康をはぐくみ、そして地域のネットワークをはぐくむことにつながります。

そこで、北潟の森では、以下のような利活用コンセプトと、利活用の基本方針を定めています。

【利活用コンセプト】

『人・森・海』を、つなぎ、はぐくむ北潟の森

■ 利活用の基本方針

- 「人（里）－北潟の森－海」をつなぐ活動
  ⇒潮騒を感じる森のみちを活用した森林環境教育と健康づくり
- 北潟の森をみんなではぐくむ活動
  ⇒潮害防備保安林として、里山として、みんなで取り組む森づくり
- 北潟の森と周辺地域をつなぐ活動
  ⇒北潟の森と周辺観光拠点が連携したネットワークづくり

3.2 北潟の森の利活用のあり方

- 北潟の森は海に近接し、沿岸部と内陸部、北側と南側で表情の異なる景観を有しています。
- 北潟の森の利活用には、森林環境教育や健康づくりと、みんなで行う森づくりに大きく分けられます。
- 北潟の森には、地形や植生などの自然立地を活かした 3 つのゾーンが設定されています。

(1) 北潟の森とその周辺の環境

北潟の森は、日本海に接した急な斜面が海岸沿いに約 1.8km 連続し、その斜面はクロマツの低木林で覆われています。そして、斜面上部からは緩やかな起伏を持ちながら平坦な地形が内陸側に続きます。内陸側は、中央部の谷で南北に二分され、北側にはタブノキが優占する照葉樹林が、南側にはクロマツとコナラが混交する低木から亜高木林が広がります。全体的に海に近接していることから、森の中にいながら日本海の潮騒を感じることができます。

北潟の森より内陸側は、「富津の甘藷（かんしょ）」で知られるサツマイモが栽培される畑地が広がり、平成 22 年、そのなかに風力発電用の風車が建設されました。

(2) 北潟の森の利活用のあり方

北潟の森の利活用のあり方は、森林環境教育や健康づくりといった、今ある自然を利用して行うものと、みんなで行う森づくりのように育成・整備するものに大きく分けられます。

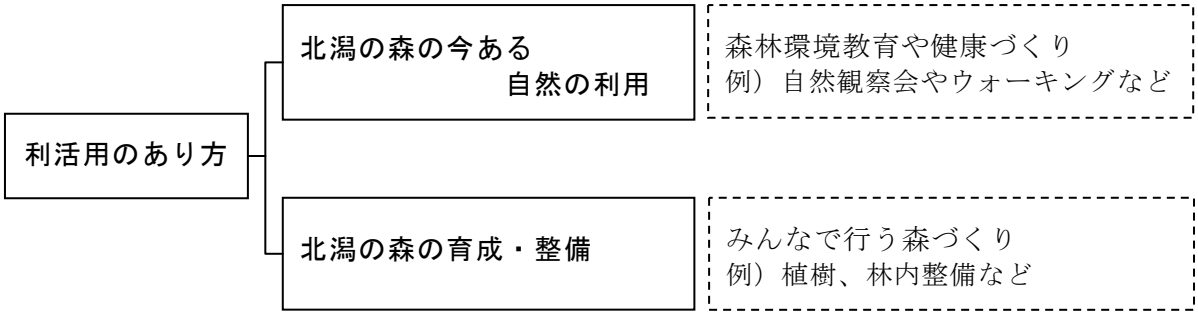

図 3　北潟の森の利活用のあり方

(3) 北潟の森の今ある自然を利用する考え方

北潟の森の多様な草木や動物、南北で表情の異なる森の景観は、四季を通してそのまま森林環境教育に利用することができます。そして、潮騒を感じながら歩くことのできる起伏のある遊歩道や、眼前に広がる日本海は、心身のリフレッシュなどの健康づくりに役立てることができます。

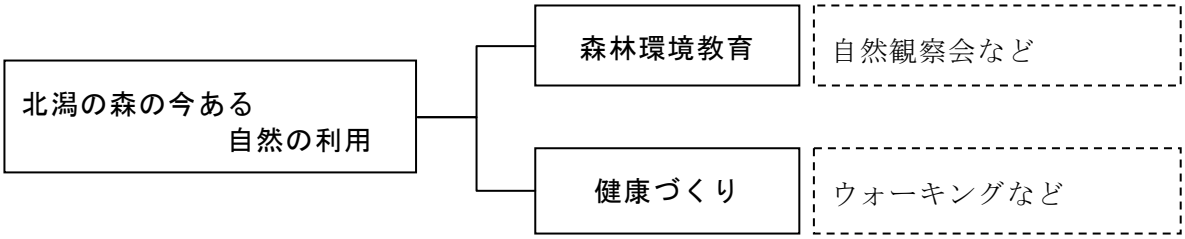

図 4　北潟の森の今ある自然の利用のあり方

(4) 北潟の森を育成・整備する考え方

北潟の森では、利活用コンセプト及び基本方針をもとにして森づくりを行うことができます。

みんなで行う森づくりには、大きく分けて森林整備（林内整備など）、遊歩道などの計画・整備、そして施設計画・整備（案内板などの整備）があります（図 5）。

北潟の森は、国有林としての森づくりの方向性に関する森林計画が定められています。そのため、いずれの森づくりにおいても福井森林管理署と連絡を取り、連携しながら進めなければなりません。

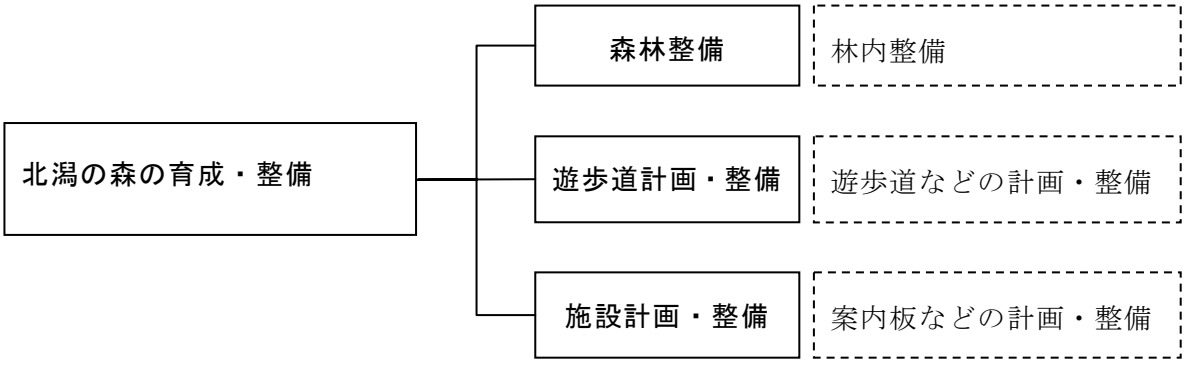

図 5　北潟の森の育成・整備のあり方

(5) 北潟の森で設定された 3 つのゾーン

北潟の森では、地形や植生などの自然立地を活かした 3 つのゾーンが設定されています。利活用の際には、3 つのゾーンそれぞれの設定に沿って行います。

このように、ゾーンごとの設定に沿って森林・林業体験プログラムを検討することは、プログラムを計画する際にテーマの設定が容易で、継続的なプログラムが展開できる効果などがあります。

ゾーンごとの設定と利活用の具体的なイメージは、次ページ以降に示しました。

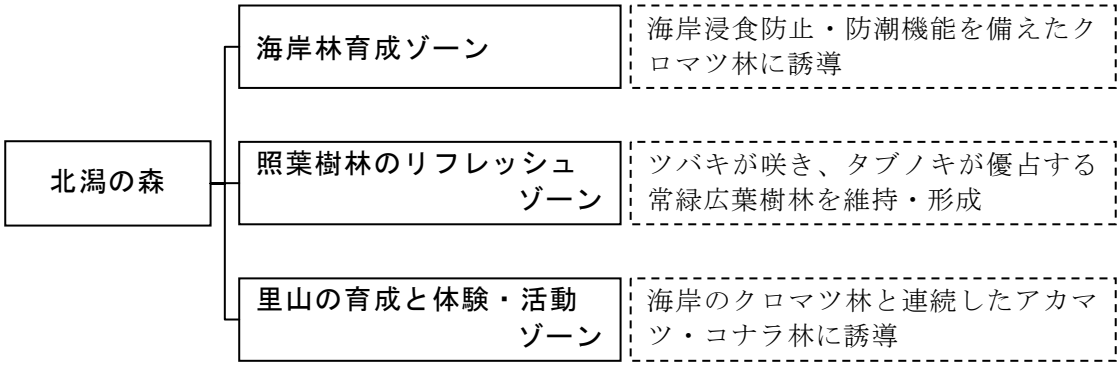

図 6　北潟の森のゾーニング概念

図７　北潟の森のゾーニング図

1） 海岸林育成ゾーン

海岸林育成ゾーンは、現状ではクロマツ林を主体とした常緑針葉樹林になっています。このゾーンは、海岸浸食・防潮機能をより強めるため、健全なクロマツが立ち並ぶ海岸林に誘導します。

具体的には、現在のクロマツの低木林は、徐々に高木林に誘導し安定的な林分の形成を目指し、飛砂防止と地面安定のための植栽木も導入します。

斜面が急なため、傾斜が緩やかなゾーンの一部において、新たな植栽活動などを体験することができます。さらに、植栽活動を通じて森づくりを体感できるプログラムに展開することができます。

表１　海岸林育成ゾーンの整備・利活用内容

項　目		現　状	目標とアプローチ
目指す森の姿		・クロマツ林を主体とした常緑針葉樹林。 ・林床は明るく、海浜植物もみられる。	・健全なクロマツが立ち並ぶ海岸林。 ・飛砂防止のための植栽木導入。
整備と利活用の展開	森林環境教育	・特段の利用はない。	・傾斜が緩やかな場所を中心に、森林環境教育、健康づくりを実施。
	健康づくり	・クロマツが植林されている。	・傾斜が急な場所が多く、健康増進のための利活用には不向き。
	森づくり	・特段の利用はない。	・クロマツの補植により海岸林の保全を促進。 ・保育作業への参加により、クロマツ林の形成と、国土を守る海岸林の役割、必要性を学ぶ教育普及が可能。
利用可能な資源 ・国土と暮らしを守る海岸林は、森の多面的な機能を知る生きた学習素材。			 飛砂防止と海岸林保全のための施設

図 8　海岸林育成ゾーンの位置と整備目標

2） 照葉樹林のリフレッシュゾーン

照葉樹林のリフレッシュゾーンは、現状では、タブノキ、シロダモを主体とした常緑広葉樹林となっています。このゾーンでは、タブノキやシロダモなどの常緑広葉樹の鬱蒼（うっそう）とした原生林（極相林）に誘導します。

具体的には、茂りすぎたかん木やつる類を取り除くなど、森林を健全な状態に整備することにより、現在よりやや明るい林分に誘導します。

全体的な地形は、起伏が比較的小さくなだらかであり、また、北潟の森の中では静けさを保っているゾーンのため、「鬱蒼（うっそう）とした森」を活用したプログラムが展開できます。

表 2　照葉樹林のリフレッシュゾーンの整備・利活用内容

項　目		現　状	目標とアプローチ
目指す森の姿		・タブノキ、シロダモを主体とした常緑広葉樹林。	・常緑広葉樹の高木林。 ・鬱蒼（うっそう）とした原生林（鹿島の森のような姿）。 ・つる類や繁茂したかん木の整備。 目標とする森のイメージ（鹿島の森）
整備と利活用の展開	森林環境教育	・管理用の作業道（幅 4m）がある。 ・総合案内看板が 1 基ある。	・緩やかな起伏を活かした林内歩道の整備。 ・樹名板などの設置。 ・大径木を活かした森遊び。 ・早春に咲く植物の観察。
	健康づくり		・地形の起伏が比較的小さく、軽めのトレーニングコースとしての利用が可能。 ・コースの設定と案内板の設置。
	森づくり		・下草刈りなどの林内作業体験。
利用可能な資源 ・ツバキの花が道の両側に続く、「ツバキの道」。 ・原生林の趣を見せる常緑広葉樹林。 ヤブツバキの花			

図 9　照葉樹林のリフレッシュゾーンの位置と整備目標

3） 里山の育成と体験・活動ゾーン

里山の育成と体験・活動ゾーンは、現状ではアカマツやコナラが主体の明るく樹林高の低い二次林になっています。このゾーンでは、昭和 30 年代まで国内で広くみられた薪炭林[1] をイメージして、現状の森を高木林にゆるやかに誘導します。

このゾーンでは、起伏のある森の道や、海を見下ろすビューポイントが 2 か所あり、森のみちを歩きながらも、突然開ける海の景観を楽しむプログラムが展開できます。

[1] 薪炭林とは・・・薪や木炭の原料の生産を目的とする森林で、主にクヌギやコナラからなる森林で、人為的な管理によって維持されてきた。

表 3　里山の育成と体験・活動ゾーンの整備・利活用内容

項　目		現　状	目標とアプローチ
目指す森の姿		・アカマツやコナラが主体の明るい二次林。 ・樹高が 5～6m 程度と樹林高は低い。	・昔の薪炭林に近い、里山の森が目標。 ・林内整備を行い、森を育成。 ・みんなで育てる森の区画を設定。 薪炭林に近い森（ゾーン西側）
整備と利活用の展開	森林環境教育	・特段の利用・整備はない。	・現況の未舗装道を活かした森林環境教育プログラムの展開。 ・海岸を見下ろす場所、内陸側に新たな歩道を設置することにより、より多様な利用を促進。
	健康づくり	・管理用の作業道（幅 3m）がある。 ・総合案内看板が 1 基、樹名板が 30 基ある。	・地形の起伏を活かしたアップダウンのあるトレーニングコースの設定が可能。 ・トレーニングコースの設定とコース、案内板を設置。 ・海を眺めるビューポイントを整備し、ベンチを配置。
	森づくり	・松枯れの処理が広範囲で行われている。	・林内整備の森づくり体験により、目標とする森の姿に誘導。

利用可能な資源

・2 か所の海を見下ろすビューポイント。
・根回り 120cm の大スダジイ
・春植物の花（オウレン、トキワイカリソウなど）。
・さまざまな遷移段階の森林（アカマツ林→アカマツ・コナラ混交林→コナラ・シロダモ混交林→タブノキ林）。

左：オウレンの花／右：大スダジイ

図 10　里山の育成と体験・活動ゾーンの位置と整備目標

(6) 遊歩道などの整備計画における考え方

北潟の森の育成・整備では、森林整備（林内整備など）、遊歩道などの計画・整備、そして施設計画・整備（案内板などの整備）に大きく分けられることを 11 ページで述べました。

いずれの育成・整備活動であっても、前述のように福井森林管理署と連携しながら進めることが重要です。なかでも、遊歩道及び施設に関する計画・整備は、森全体で調和の取れた活動にしたいものです。

そこで、ここでは、遊歩道および施設の計画・整備における考え方を整理しました。

1） 北潟の森の遊歩道・施設の現況

北潟の森には、現在、幅員 1mの浜街道のほか、幅員 3～4mの遊歩道が森の中を通っています。また、施設は、総合案内看板 2 基、樹名板 30 基が設置されており、観察会やウォーキングに活用できるようになっています。

図 11　北潟の森の遊歩道及び施設などの設置の現況